

事業番号	09 04 11	事業改善シート（28年度実施事業分）		<input type="checkbox"/> 予算要求	<input type="checkbox"/> 当初予算案	<input type="checkbox"/> 補正予算案	<input checked="" type="checkbox"/> 点検
事業名	信州花き輸出拡大・新需要創出事業			担当課	部局	農政部	
総合5か年計画	プロジェクト			課・局・室	園芸畜産課		
	施策の総合的展開	1-3 夢に挑戦する農業 2 自信と誇りを持てる信州農畜産物の生産		E-mail	enchiku@pref.nagano.lg.jp		
人口定着・確かな暮らし実現総合戦略	信州創生の基本方針	3-3 活力と循環の信州経済の創出		実施期間	H28 ~		
	施策展開	3-(1) 経済構造の転換 ア 県内産業の競争力強化 ウ 農業の競争力強化					

1 事業の概要

目指す姿	花き産業の発展を加速するため、輸出拡大を図るセミナーや商談会等を開催するとともに、花きの新需要創出に向けて、日常生活における花の活用や実需者と連携した新商品の開発を促進する。		
現状（予算編成時）	生産者の高齢化や消費の減退等により花きの産出額が減少しているなか、本県花きの特徴である高い技術力と品質等の強みを活かし、国内外の多様な実需者ニーズへの的確な対応を図るとともに、花きの幅広い活用を提案、促進することが急務となっている。		
県が関与する理由	県関与の必要性あり	【左記の説明、根拠法令等】 輸出拡大に向けた全国団体、卸売市場との連携や生産技術の確立、教育、医療、福祉等へ幅広く花きの活用を促進していくため、県関与の必要性が極めて大きい。 花きの振興に関する法律、長野県食と農業農村振興計画	
成果目標・事業内容	① 成果目標(H28) 花き産出額の増 143億円(H26)→160億円(H28)（第2期長野県食と農業農村振興計画における目標年(H29)の努力指標で設定した）		
	② 事業内容 (単位:千円)		
	項目	実施方法	H28事業実績
			H28 (当初) H28 (決算) H29 (当初)
	花き輸出の拡大	直接	(1)花き輸出促進セミナーの開催 1回 (2)輸出拡大に向けた商談会等の開催 1回 (3)G7交通大臣会合における県産花きのPR 1回 (4)海外展示会における県産花きのPR 2回
	新たな花き需要の創出	直接	「信州」花活プロジェクトの実施 生花コサージュの活用促進 13催事
		合計	8,773 4,973 2,926

事業コスト	区分(単位:千円)	27年度	28年度	29年度	成果目標の達成状況											
	予算額	前年度繰越				項目	H26末	H27末	H28			H29 目標				
		当初予算		8,773	2,926				目標	成果	達成状況					
		補正予算		△ 2,220					花き産出額	143億円	150億円		160億円	148億円	未達成	160億円
		合計(A)	0	6,553	2,926											
	Aの財源	一般財源		6,553	2,818	花き輸出額	-	2,335万円	-	4,022万円	-	5,000万円				
		県債														
		国庫支出金														
		その他	0	0	108											
	決算額(B)		4,973													
概算人件費	職員数(人)		2.00	2.00												
	概算人件費(C)	0	15,828	15,828												
	概算事業費(B(A)+C)	0	20,801	18,754												

目標に対する成果の状況	<ul style="list-style-type: none"> 花き産出額は、需要期の出荷集中による単価安と、秋季の長雨の影響等による生産数量の減少により、目標達成することができなかった。 花き輸出額は、海外に向けた県産花きのPR強化等により、前年に比べて大幅に増加した。
-------------	---

2 今後の事業の方向性

今後、事業をどのようにしていきたいか	<input type="checkbox"/> 事業を実施しない <input checked="" type="checkbox"/> 事業を見直して実施 <input type="checkbox"/> 事業を現行どおり実施 ・花き輸出では、海外バイヤーの招へいによる産地見学会等、PR活動を強化し、品質の高い県産花きの海外における知名度向上を図る。 ・県内での需要創出では、新たに県内ホテルや旅館における花きの利用促進を図るため、「花によるおもてなし講座」を開催し、花きの幅広い活用機会の創出を図っていく。
--------------------	---